

重点目標	自転車乗車に伴う事故やケガを防止する。	P
現 状	これまで、登下校時や帰宅後、休日の自転車乗車時に、転倒してケガ（打撲・創傷・骨折）をしたり、自動車と接触する事故が発生している。幸い、大事故にはいたっていないが、登下校時を含め、日常の自転車乗車に伴う事故発生がとても心配な状況である。	
具体的な目標	登下校時や帰宅後、休日の自転車乗車に伴う事故やケガの発生をゼロにするため、交通ルール、マナー指導を徹底する。	
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> ① 登下校時のヘルメット着用を徹底指導する。 ② 横断歩道や道路を横断する時は、自転車を降りて、左右の安全を確かめて渡るよう指導する。 ③ 生徒会の生活委員会からの呼びかけをする。 ④ 教師側からの日常の注意と指導を徹底する。 (学級担任・学年部・部活担当者・集会時) ⑤ 家庭・保護者への注意、協力の呼びかけを啓発する。 (校報・学年・学級通信等による啓発) ⑥ 全国交通安全運動期間を中心に街頭指導をする。 (教師・生活委員会) ⑦ 通学路及び危険箇所の確認と安全走行の具体的な指導をする。 	
具体的な取組状況	<p>①②についてはよく実施されている。生活委員会と職員による登校時の街頭指導を5日間ほど、その他、職員による登校時の街頭指導、巡回指導を危険箇所の確認も含め数日、不定期ではあるが実施した。登校時は比較的良好な状況で登校できているが、下校時は並進が見られた。</p> <p>安全指導（自転車乗車のマナーやルール）についての学級担任や部活担当者からの日常の声かけ（指導）はよく行っている。</p>	D
達成状況	具体的方策の①～⑦について、よく実施した。しかし、自転車と自動車（普通車）の接触事故、下り坂でスピードを出しすぎて転倒する事故、2件があった。目標のゼロは達成できなかった。	



自己評価	(評価)	(根拠)	C
	B	<p>具体的方策の①～⑦について、よく実施した。集会や学級担任、学年部、部活指導、委員会からの呼びかけ・注意などを通して、事前指導に力を入れ指導してきた。</p> <p>職員及び生徒による街頭指導も実施、日常の注意、現場指導も行ったが、事故発生をゼロにはできなかった。</p>	

- ↑ 評価基準
- A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
 - B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 - ↓ C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない



学校関係者評価と意見	(評価)	(意見)	C
	B	<ul style="list-style-type: none"> ・目標のゼロは不可能である。 ・事故以外の自分の不注意によるヒヤッとしたこととか自分から起こした過失事故などはどうだったのか。 ・通学路の危険箇所をそのまま放置しているのは保護者の責任である。 ・親が交通ルールを守らないで子どもに指導はできない。 ・生徒に目標を持たせて、いろいろな項目をチェックするのはどうか。例えば、登下校時に交通ルールを守っているかなど。 ・生徒が自分で変容を感じることができるような目標にするといいのではないか。 	



自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	(評価)	(意見)	A
		<ul style="list-style-type: none"> ・PTA活動としての交通安全指導、街頭指導、危険箇所のチェックを計画的に実施する。 ・生徒会生活委員会の活動をより充実させ、交通安全への意識を高めさせる。生徒の自己評価活動を取り入れた活動を工夫する。 ・警察と連携し、交通安全教室の実施を検討する。 ・広報（校報・学年部報等）を活用し、保護者、家庭に具体的な情報を提供し、注意、協力を呼びかける。 	